

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	基盤教育機構	職名	教授	氏名	行名 則子
研究課題	日本人学生への「文章表現」・「日本語表現」と留学生への「日本語教育」の相互作用 (3)				
研究キーワード	ループリック 十字モデル	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

論理的な文章を書くために、どのような練習をすることが有効かについて、初年度、昨年度と実験を重ねてきた。今年度は議論の方法を可視化することによって、議論の意味を理解してもらうことを目的とした。そのためのツールとして、「十字モデル」を採用した。そして実際に学生が十字モデルを実行できたかを自身で判断するための Rubric の使い方について示した。

「論文・レポート」の書き方については「トゥールミン・モデル」を使って説明することが多い。しかし「トゥールミン・モデル」は他者を説得する「主張」を明示するには有効であるが、他者への情報提供や複数の可能性を探る目的には不都合が生まれる。これについて鈴木志のぶ (2004) 「議論の多面的分析方法」は情報提供や複数の可能性についての議論の方法論を提案した。この鈴木 of 提案を発展させた牧野由香里 (2010) 「対話の進化を可視化する知識構築の十字モデル」・(2015) 「十字モデル桃太郎 (マンガ)」を使用し、学生の議論の意味理解を促すこととした。

生活レベルの対話 (桃太郎) にも、高次レベルの対話 (レポート・論文) にも対応できるのが、このモデルの有益なところである。「トゥールミン・モデル」では主張だけが目立つ。そもそも将来、論文を書くことで人生を送る学生は多くないだろう。互いの立場を理解し、自分の立場をどこまで主張できるかが重要である学生にとっては、「トゥールミン・モデル」では「何かが違う」と思われてしまうこともある。結果、レポートが上手に書けないことになる。

十字モデルの説明と実践については、クラス人数が多い (80 人ほど) ので、実際にプレゼンテーションを行うことはしなかった。このプレゼンテーションを理解してもらい、レポートを書く方法につなげるという形をとった。

論理的に議論するだけでなく、他者と対話し意見を共有する (文章の中でも) ことが加わることで、現実的で、社会生活にも使える「レポート」が書けるようになったと考える学生が増えた。「論理」を理解する、という意味では日本語母語話者にとっては「十字モデル」は理解しやすかったようだ。しかし、留学生の場合は、日本語力の差がそのまま十字モデルの理解度と繋がってしまった。留学生に十字モデルを使う場合は、十字モデルに入る前の準備がさらに必要だとあらためて思い知らされた。マンガという媒体で、伝わるものが多いと考えたが、そうではなかった。

また、十字モデルとともに使用した Rubric に関しては、評価項目を細目化することで、学生の注意を促した。「レポートが、常体で書かれている」などの初歩的な事柄についても評価項目を作成した。その結果、学生のレポートの質が向上した。Rubric の利用や、評価方法については議論のあるところだと考えられるが、「レポートを書く訓練」の場には必須のものであると考えている。

Rubric に関しては先ほどの「十字モデル」とは逆に留学生が「何を書けばいいのかが分かって便利」という評価をしている。日本語母語話者についても、レポートが苦手な学生にとって、特に有効なツールであると考えられる。

評価項目の作成に関しては、「十分な」「明確な」などといった抽象的な表現を避けることが重要である。どこまでも具体的に「何を、どのようにするのか」ということを書き込むことが有効な Rubric 活用につながると考えられる。

「十字モデル」にしても「Rubric」にしても「可視化」がキーワードであった。映像の時代に生きている学生にとって、「見える化」は大きな要素であるといえる。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

特になし

【著書・論文（査読なし）】

特になし

【学会発表等】

学会発表や論文、著書執筆は特になし（研究会での発表は除く）

3. 主な経費

昨年度、図書資料などの購入をせずに、リモート学会や発表会などに対応するために、タブレットを購入したので、資料購入が手薄になってしまった。今年度はパソコンなどの購入をしなかったので、図書その他の資料購入が中心になった。被験者に使用させるための文献資料と、タブレットの周辺機器（被験者のイヤホンやヘッドフォンなど）の購入も実現した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし